西南学院大学

神　学　部　報

第６２号　２０２５．６．１５
西南学院大学神学部
（編集：西南学院総務部キリスト教活動支援課）
〒814-8511　福岡市早良区西新６-２-９２
TEL 092-823-3336

巻 頭 言

2025 年度始業礼拝　**「屍の上に世界を創るのではなく」**

創世記 1 章 1～3 節、27 節　　神学部長　日原　広志

1:1～3
初めに神は天と地を創造された。地は混沌として、闇が深淵の面にあり、
神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」すると光があった。
1:27
神は人を自分のかたちに創造された。神のかたちにこれを創造し男と女に創造された。
（聖書協会共同訳）

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。西南学院大学神学部へようこそいらっしゃいました。神学 Theology とは新約聖書の言語ギリシア語ではテオロギア（θεολογία）――θεός（神）＋λόγος（言葉）「神の言葉」となります。「言葉」とは何でしょう。旧約聖書の言語ヘブライ語では言葉はダーヴァールといいます。ところ変われば品変わる、ということで、ヘブライ語は右から左へダーヴァールと書きます。聖書のダーヴァール「言葉」は、シャボン玉ではなくビームのようなものです。ブログやつぶやきのような、聞き手を想定していない独り言ではなく、特定の相手、取り換えの効かない聞き手に向かっての、徹底的な語りかけです。そこには具体的な関係性があり、聞き手がいます。文脈を持った「言葉」です。今日は天地創造神話として有名な創世記 1 章の物語を、取り換えの効かない相手に向かっての徹底的な語りかけとして、特に 3 節の「光あれ」と 27 節の「神のかたち」の 2 点に集中して、味わいたいと思います。

南ユダ王国を滅ぼされ、バビロン捕囚された旧約の民、イスラエルの人々、捕囚民は、そこで、世界帝国の栄耀栄華と、最先端の文明を目の当たりにします。自分たちを滅ぼしたバビロニア帝国の巨大な宗教体系にカルチャーショックを受け、彼らの誇る創世神話エヌマ・エリシュに、揺さぶられたり、魅了されたりする人々。そのような状況で、聖書の神は「光あれ！」と創世記 1 章を捕囚民に語ったのでした。

そこには、帝国の創世神話に否、ノー、を突きつける聖書の神がいます。バビロニアの創世神話は、多くの神々と大怪獣による騒々しい創造でした。『渡る世間は鬼ばかり』ではありませんが、大家族の揉め事が戦争を産み、世界を産んでいきます。父神は殺され、その死体の上に神殿が築かれます。母神は殺され、その亡骸をばらして、素材として、世界が造られます。疲れた神々は、自分たちが休めるようにと、使役用ロボットとして人間を作ります。創世記 1 章はこの構造をパロディのようにひっくり返していきます。ただお一人の神による、騒々しくない創造。そして一切の材料・素材を必要としない、み言葉による創造です。

屍の上に世界を創るのではなく――怪獣・竜・蛇・巨大な存在を倒して、その死体の上に国を建てる、というのは古今東西にあるモチーフです。敵・戦争・殺し合い・勝利・殺害・死体あっての世界創造、このモチーフを聖書の神は拒絶しました。戦争と死体を土台とした創造から、み言葉による創造へ、世の常識をひっくり返したのです。

世界の創世神話は、みな、この世の人間が考えて作ったものでした。だからそこにはある諦めの境地がありました。この世の現実には敵・戦争・殺し合い・勝利・殺害・死体が満ちている。だから、世界創造のときからそうだったのだろう…これからもずっと、現実はそれだけなのだろう……この世からしか出発できない宗教、人間の常識からしか出発できない創世神話はいつも同じパターンに陥ります。これに「否！」と言ったのが聖書の神。「光あれ！」とは「諦めるな」「のみこむな」「もうひとつの選択肢（オルタナティヴ）がある、じゃなかしゃば（そうではないもっとよい世界）がある」「神の現実を信じよ」と同義語です。

創世記は「諦めない」「希望の神話」です。聖書の神はみ言葉によって、世界を創造しました。世界創造にあたって、人間世界の必要悪を何一つ必要な工程・素材とはしませんでした。そこには敵はいなかったし、戦う必要もなかったのです。神の創造した天地は、死体の上に築かれたものではない！この力強い断言が「光あれ」の中に込められているのです。

これと連動しているのが 27 節「神のかたち」です。「神は人を自分のかたちに創造された。／神のかたちにこれを創造し／男と女に創造された。」(創 1 : 27)　「神のかたち」は「神にかたどって」「神の似姿」とも訳されます。それは古代近東世界一般では王にだけ許される形容でした。バビロニア帝国では大王だけが「神のかたち」でした。臣民は「ただの人間（使役ロボット)」、奴隷は「所有財産」、捕囚民は「モノ」でしかありませんでした。人間は神のかたち・似姿ではありません。大王だけが神のかたち――ところで、どんな神のかたちかというと、当然バビロニアの神々のかたちです。既に見たように、「戦争に勝ち、敵を殺し、死体の上に国を建てる神」のような大王であり、「自分が休むために、使役ロボットとして人民を働かせる神」のような大王でした。

聖書の神はこれもひっくり返します。創世記１章では「全ての人間が神のかたち・似姿だ」と宣言されます。大王の立場も身分制度も形無しです。全ての人間は、神のかたち――ところで、こちらは、どんな神のかたちなのでしょう。言うまでもなく、聖書の神のかたちです。それは「敵を作らず、戦争を必要とせず、死体の上に国を建てない神」のような人間であり、「言葉だけで世界を創造する神」のような人間です。

聖書の神は、バビロニアによって 100%人格否定されていた捕囚民を、バビロニアの創世神話の枠組みを用いて、200%絶対的に肯定する革命的刷新を行ったのです。この神からの力強い断言が、捕囚民たちをよみがえらせ、バビロンの地で聖書の編纂事業が始まっていったのです。もう一つの神の現実がある。今ここから始めることのできる新しい生き方がある。聖書の神が行った創造、みことばによる創造は、この世の現実や常態化しているものに対して、常にもう一つの選択肢、じゃなかしゃば（そうではない世界）を突きつけずにはおかないのです。それは、ローマ帝国下で為されたイエス・キリストの神の国運動を経て、今日のキリスト教会の、あらゆる「犠牲のシステム」に否を言う運動へと続いています。

新約聖書ヨハネによる福音書１章は旧約聖書創世記１章と響き合っています。「初めに**言**があった。**言**は神と共にあった。**言**は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった」(ヨハネ 1:1-3)　ここにも、イエス・キリストの本質「屍の上に世界を築かない！」が語られています。「言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった」(ヨハネ 1:4-5)　ここにも、イエス・キリストの生きざま「屍の上に世界を築かせない！」が語られています。

最後に、先月神学部を卒業された方々の言葉を紹介します。「新しい価値観を得て、生き方が変わった」「当初は薄い興味しかなかったが、学んだ後の満足度は高かった」「神学は過去だけではなく、現代や社会と密接につながっている学問」――この学び舎で共に神学を分かち合っていきましょう。(PPT による説教)

2025 年度　入学生

【神学部神学科　キリスト教人文学コース】１０名

【神学部神学科　神学コース】１名

渡辺　鷹優　（推薦教会：大阪中央バプテスト教会）

【大学院神学研究科博士前期課程】２名

（神学コース１名）

長尾　基詩　（推薦教会：府中キリスト教会）

【リカレント生】２名

今井　牧夫　（推薦教会：日本キリスト教団京北教会）

横濱　峰二子　（推薦教会：札幌バプテスト教会）

《 2025 年度　神学部・大学院神学研究科　学生人数表 》

学部	専攻科	４年次	３年次	２年次	１年次	計
神学コース		1			1	2
人文学コース		16	9	8	10	43
選　　科	1	1				2
専 攻 科						
合　　計	1	18	9	8	11	47

*カリキュラム上、選科１年は学部３年次、２年は４年次、３年は専攻科にあたる

大学院	博士後期 ３年	博士後期 ２年	博士後期 １年	博士前期 ２年	博士前期 １年	計
合　　計	1				2	3

研究生・研修生・リカレント生		2

総　　合　　計	52

2025 年度神学部開講講演要旨 2025 年 4 月 1 日(火)　於：西南学院大学チャペル

「ダンスターとホームズ：初期アメリカ・バプテストの信教の自由の戦い」

神学部 教授　金丸 英子

独立前の17世紀のアメリカには、今日理解されているような信教の自由と呼べるものは存在していなかった。そのため、当時のバプテストは社会的にも宗教的にも少数派で、常に公権力の監視の対象であった。理由は、イングランドの移民によって拓かれた植民地の決まりを守らなかったためで、特に植民地教会（公定教会）の幼児洗礼を否定し、家の教会で自由に礼拝を行い、植民地教会の信者の献金が税金に充当されることや、そこから公定教会の牧師給が支払われることは宗教と政治の癒着と見て異を唱えたためである。

当局の監視はバプテストの主張に賛同した植民地教会の教会員にまで及んだ。アメリカ最古の最高学府ハーバード大学の初代学長ヘンリー・ダンスターはその好例である。自身はバプテストではなかったが、幼児洗礼に疑問符を付け、バプテストの主張する信仰者のバプテスマに理解を示して、４番目の子供に幼児洗礼を受けさせなかった。その結果、12年間温めた学長の座を追われ、あらゆる社会的な地位と名声、約束された裕福な人生も失ったまま世を去った。そのダンスターに影響を与えたのがバダイア・ホームズというバプテストの信徒である。初期アメリカ・バプテストの政教分離と信教の自由の戦いが語られる時には、ロジャー・ウィリアムズ、ジョン・クラークに光が当たる。この両者はイギリスで大学教育を受け、牧師であり、アメリカを離れて長い期間イギリスに滞在し、執筆や政治活動を通して発信できる環境にあったが、ホームズは一介のガラス職人として植民地で生活した庶民である。そのようなバプテストの政教分離と信教の自由の戦いは、これまで以上に発掘される価値がある。

ホームズは1610年にイギリスに生まれ、ピュリタンとなった。1638年にアメリカ・ボストンに上陸し、セーラムを経てレホボスに移り、そこで公民となって地域の教会の教会員となったが、牧師を提訴し、役員と衝突するなど、穏やかな教会生活とは言えなかった。いずれもホームズに非はなかったものの、その日々は「死と暗闇の連続の人生で、自分の魂はまるで荒れた波に浮き沈みしていたようだった」と回顧した。やがてバプテストの牧師の説教に触れ、信仰を新たにされて、1650年にバプテストに転向した。

翌年、訪問伝道先の家の教会で夕礼拝に出席していたところを、自分の牧師（ジョン・クラーク）と教会員と共に当局から逮捕・投獄され、罰金刑を課せられた。牧師と教会員は友人の援助で釈放されるが、ホームズは自弁の道も友人の肩代わりの申し出も選ばず、鞭打ち刑を選んだ。理由は、「イエスの御名のために、苦難を受けるに足る者とされた」ことを神に感謝するためであった。

ボストンの大通りで刑を受けるホームズの恐怖を和らげようと、友人たちは様々な試みを行おうも、「刑に耐え忍ぶ強さは神から頂かねばならない」との信念を貫き、すべてを拒む。しかし、回顧録で「悪魔の囁き」と表現した鞭打ち刑の恐怖には断続的に苛まれた。しかし、「自らの良心をもって証を立てよ。自分のため、他人のため、この世のためはなく、ただ我が主のため、我が主の栄光のため」との確信に至ると共に、鞭打ちにおびえない勇気と涙を流さない強さを与えられるように懸命な祈りを捧げた。その中で聞いた神の声は「すでに魂を私に委ねているように、今、お前の肉体をも私に委ねよ」であった。

刑の執行前の最後の発言も許されないまま、ホームズは大通りに引き出され、30回の鞭打ち刑を受けた。ホームズにとってこの経験は「この時ほど、神の臨在を感じたことはない」体験であり、この刑の執行から一週間後に再び30回の鞭打ち刑に課せられている。この一連の出来事は、当時ニューイングランド植民地で最も嘱望されていた教養人ダンスターに後戻りできないほどの影響を与えたと記録されている。

ホームズの信仰は極めて素朴で、活字となった信仰告白には世の不正義を糾弾する表現は見られない。あるのは神への賛美のみで、「神の恵みと主であり救い主なるイエス・キリストに栄光と賛美と誉を帰す」、「この信仰の告白が私をニューイングランドのボストンにおける鞭打ち刑に立たしめ、そこで流した私の血が私の信仰を証した。我が主の力を通して与えられる希望が、死に対する私の証を生んだ」と述べている。独立前のアメリカ・バプテストによる信教の自由と政教分離の戦いの底には、そのような信仰の「熱」があったと思われる。自らの信ずるところを、それが素朴で神学的に洗練されていなかったとしても、実存の礎をそこに下ろし、信ずるところをそのまま生きた。バプテストのこの「熱」は人々の魂にも響き、ダンスターのような当代一の教養人をも捉えて余りあった。そこに、人類に対する崇高で普遍的な真理への希求が響いていたからであろう。

その後、信教の自由と政教分離の精神は合衆国憲法の「権利章典」に盛り込まれ、尊重されて来たが、その伝統はトランプ大統領再選以降に大きく揺らぎ、信教の自由をはじめとするアメリカの民主主義は崩壊の危機に瀕している。「アメリカ第一主義」のスローガンのもと、帝国主義的な政策を推し進める現政権の支持基盤は、自ら福音派と任じるキリスト教右派である。トランプ再選に大きな期待を抱いたこれらの人々は、再戦を「キリストによる支配の新時代をもたらす神の計画の重要な一歩」と喧伝し、トランプ自身も再選後はキリスト教に「これまでにないほどの権威を与える」と公言。トランスジェンダーへの規制強化と併せて、国内のキリスト教徒へのあらゆる差別や迫害を徹底的に調査する特別チームの創設を確約した。「アメリカのキリスト教を守る」という大義名分を掲げたからである。また、長年最高裁で争われている公立学校におけるキリスト教式の祈祷も容認した。現政権の政策に賛同しない高等教育機関への締め付けも行われ、ことは学問の自由にまで及んでいる。

日本では政治と宗教の露骨な接近は見え難く、宗教に対する強権も発動されないため、「政教分離・信教の自由の戦い」と言われても現実味は薄いかもしれない。それでも、先月の朝日新聞の「折々の言葉」に紹介されたスペインの思想家オルテガ・イ・ガセットの、「最大の危機は・・・あらゆるものに対する国家の介入、国家による社会的自発性の吸収」の言葉に、選者は「これが私たちの身近な場でも起こっている」と言い添え、その昔アメリカのバプテストが直面し、今も直面している課題が私たちの周りにもあることを仄めかす。

私たちは、歴史的にはアメリカ・バプテストの末裔である。自らの感覚と感性を磨くに怠慢にならず、「少数者」と呼ばれる人たちの痛みを知る努力を惜しまず、そこに目と心を注いで共に立つことが求められる。異なる立場であっても、使命を同じくする人々との協力も惜しまない。許された場で、小さくても正義の声をあげる勇気。それはバプテストが歴史を通して担ってきた信仰のミッションであった。

2024 年度卒業礼拝説教 2025 年 3 月 19 日(水)　於：西南学院大学チャペル

「三つの天国のたとえ」

マタイの福音書 13 章 44 節～50 節

松本福音村バプテスト教会 牧師　黄 基英

안녕하세요！今日、卒業の皆さんご卒業おめでとうございます。私はファン・イェラムの父親です。韓国人です。私は日本が大好きです。今日この貴重な場に立ててくださった学長と先生方に感謝いたします。そして、神学生の皆さんに神様の御言葉を伝えることができ、とても嬉しく思います。

今日の御言葉は「三つの天国のたとえ」です。"宝、真珠、網"この3つを"三種セット"としてまとめてお話しします。今日の御言葉を見ると、イエス様が弟子たちに3つの天国のたとえを語られました。

1. その第一のたとえが隠された宝です。当時のパレスチナ地域は戦争も多かったですから、避難することも多くありました。お金持ちたちは避難する時、銀行がなかったので、お金や金銀と宝を土の中に埋めました。それが一番安全でした。土の中に埋めて、自分だけがわかるように印を付けて、戻って来たら探すのです。

44節の御言葉は、ある農夫が畑の仕事をしているときに、大きな箱を一つ見つけたという話です。箱を開けてみると、その中に宝がいっぱい入っていました。あまりにも嬉しくて、その宝物を土の中に隠して家に帰りました。そして、自分の持っている物すべてを売り払い、その畑を買ったという話です。

皆さん！そうですイエス様にあって天国を発見した人の人生はこのようなものです。皆さん、私達はどれほど貴重な宝を発見したのでしょうか。イエス様を信じるようになったことは、まるで畑で宝を見つけた金銀より、もっとも貴重な天国を発見したのです。

私もイエス様を信じて全てが変わりました。中学2年生の時、教会に行く途中でイエス様と人格的に出会いました。その時の喜びは言葉で表現することができません。全てがきれいに見えました。今は牧師になり、宣教師になりました。私のすべての生涯をイエス様に掛けました。私はイエス様を何物とも変えません。これがイエス様の中に天国を発見した人の人生です。神学生の皆さんも、ただイエス様のために生きることにイエス様の御名によって神の祝福があるよう祈ります。私は、神学生の皆さんが頑張ることを信じています。松本から応援します！

2. 第二の天国のたとえは「高価な真珠」です。この御言葉は、ある商人が良い真珠が欲しくて、全国、全世界を探し回ったということです。結局、高価な真珠を一つ見つけ自分の持っていた物すべてを売り払いその高価な真珠を買ったという話です。

皆さん、もし人々が本当の天国を発見したらその天国を「買いますか？買います！天国をどうやって買うことができるでしょうか？お金では買えません。イエス様を信じることでしか買えません。私と皆さんは高価な真珠のような、本当の天国を発見した者たちです。私達は天国を手に入れました。私達はイエス様を持っています。皆さんイエス様を持てば全てがあるのです。その理由はイエス様の中に全てがあるからです。

今日の「宝と良い真珠」のたとえは、お互いに「双子のたとえ」と言うことが出来ます。しかし、違いがあります。宝は自分が全く期待していなかったのに宝を発見したもので、良い真珠は「探して、探して、探した末に」発見したものです。ある人は全く期待していなかったのに、イエス様を信じるようになった人がいます。ある人は、イエス様を信じる家で生まれ、自然に信じるようになった人もいます。ところが、イエス様を信じてみたら、イエス・キリストが宝でした。その中に天国がありました。イエス様の中に全てがありました。またある人は、真理を探すために哲学を学んだり、永遠の真理が何であるかを「探して、探して、探した末に」イエス様に出会った人もいます。この宗教、あの宗教を信じているうちに、イエス様を発見した人もいます。このような人が「良い真珠」のタイプです。皆さんはどんなタイプですか？私は「宝」のタイプです。神学生の皆さん、貴重な天国を発見したら、今度は牧師になって、信仰で教会を生かし、教団連盟を生かし、神学校も生かし、イエス様を知らない無数の魂を生かすことができるようにイエス様の御名によって神の祝福を祈ります。

3. 三番目の天国のたとえは網です。天国は魚を捕る網のようなものだと言いました。この御言葉は、ある人が海に網を投げ入れたら、さまざまな多くの魚がいっぱい捕れたということです。引き上げ、座り、良いものは入れ物に入れ、悪いものは捨てます。

皆さん！私と皆さんがイエス様を信じるようになったことは本当に奇跡です。他のものも奇跡ですが私たちにとってこれより大きな奇跡はありません。私達は皆、貴重な宝、貴重な真珠、天国を発見した者です。イエス様を持った者たちです。イエス様を持てばすべて持っているのです。イエス様の中に真理、救い、永遠の命があります。喜びもあり希望もあります。皆さん！考えてみてください。農夫は畑が欲しいから買ったのではありません。畑に隠された宝が欲しいから畑を買ったのです。同じように畑は教会です。教会の中のすべてが良いとは言えません。問題もあります。しかし、教会に隠されているイエス・キリストが宝ですからイエス様を信じるのです。

もう一度、卒業の皆さんご卒業おめでとうございます。そして、卒業生のために祈ってくださり、献金も下さった全ての教会に感謝いたします。

2024 年度 卒業生紹介

【神学部神学科　キリスト教人文学コース】６名

【神学部神学科　神学コース】１名

長尾基詩

①推薦教会　府中キリスト教会

②進路　大学院進学

【神学専攻科】１名

奥田　悟

①推薦教会　東京北キリスト教会

②進路　品川バプテスト教会

【大学院神学研究科博士前期課程】３名

（神学コース２名）

原田　仰

①推薦教会　平尾バプテスト教会

吉田　睿濫

①推薦教会　松本福音村バプテスト教会

②進路　　高松太田キリスト教会

【リカレント生】１名

横濱　峰二子

①推薦教会　札幌バプテスト教会

※『卒業・修了・修士論文 CD 集』の廃止に伴い、今年度から神学部報に論文要旨を掲載することになりました（神学コースは必須。人文学コースは修士の希望者のみ）。論文全文を入手されたい方はキリスト教活動支援課に問い合わせてください。

卒業論文要旨

「ヘブライ語聖書における罪の三概念とその関係性
—出エジプト記 34 章 6 - 7 節の釈義を中心に—」

長尾　基詩

キリスト教会における罪の概念はこれまで原罪思想に代表されるように存在論的、かつ人間の本質を代表するような解釈のされかたをしてきた。しかし、ヘブライ語聖書を見ると、罪はむしろ多様な形をとって現れる物質に近く、ヘブライ語の中に現代の我々が「罪」と訳しうるものは非常に多い。つまり聖書翻訳の過程で、失われていった罪の特質があると考えられる。本稿では、いくつかの注解者によって罪の三大術語として指示されているもの、すなわち「アヴォン（語根עוה)」、「ペシャ（語根פשע）)、「ヘート（語根חטא)」について統語法的分析を行い、さらに、神の自己啓示として代表的な伝承素材が含まれていると思われる出エジプト 34:6-7 を釈義した。

罪の三大術語の分析を通して、それぞれの語が資料別に明らかに用いられやすかったり、あるいは意図的に避けられたりしていると思われることがわかった。その理由として本稿ではおそらくそれぞれの罪術語には行為・帰趨連関的に帰結する災いのアクセントに違いがあり、それぞれの語が語られる場において適切な語が都度選び取られ、用いられているのではないかと結論付けた。その一形式として、出エジプト 34:6-7 に代表される神の自己啓示定式に注目しつつ、罪の三大術語が同節に登場する定式を比較、検討した。その結果、神の罪の赦しについて特に焦点が当てられている定式においては、大まかに「ヘート、アヴォン＞ペシャ動詞＞ハッタート、ペシャ名詞」という枠の中で、それぞれのテキストの神学的関心に基づき、用語が使い分けられているのではないかと考察した。

研究を通してヘブライ語聖書における罪理解に対する真剣な視座は、生命に対する主要な関心ゆえであったことがわかった。罪という行為に対する結果の帰結先は基本的に死が想定されている。それを避けるために、神の赦しは人間にとって不可欠なものである。そして人間は赦しを必要とする存在であることは確かだが、それらは生命という連続体の中で行われる一連の過程であり、祭儀的な赦しの規定は、人は一度赦しを得たとしても再び罪を犯しうるという思想に貫かれている。さらに、罪は人間存在の内側に帰結するものではなく、外界、自然にも影響を及ぼしうることは、エコロジー神学や生命倫理の観点から重要な示唆を与えるだろう。結果において絶望的な罪をこそ見つめることは結果として神の赦しに神学的関心を置くことと表裏一体の関係にある。この赦しのダイナミクスを語ることはキリスト教会の責務であるし、牧会者の責任でもあるだろう。

指導教員：日原広志　教授

修了・修士論文要旨

「日本のバプテスト教会において、信仰の内省化はどの様に行われるのか」

奥田　悟

本論文は、日本のバプテスト教会における「信仰の内省化」のあり方を探究するものである。従来、バプテスト教会は「自覚的信仰」の重要性を説いてきたが、本論ではそれを一歩進めて、「何を自覚するのか」という問いに焦点を当て、「信仰の内省化」という概念を中心に据える。信仰が単なる外的な制度や行動にとどまらず、個人の内面においてどのように働き、深化していくかを明らかにしようとするものである。

序論では、本テーマに至った動機として、過去のバプテスト研究で見えてきた課題意識と、牧師としての実践的関心を提示する。論文は四章からなり、第一章では信仰の内省化の定義と意義を確認しつつ、ノージックの哲学的視座を手がかりに、六つの要素――疑問を持つこと、自己の合理性と価値の再評価、内的自由の追求、他者との関係性、意味と目的の探求、哲学的対話の役割――から内省化の構造を考察する。

第二章では、礼拝、教会学校、教会空間といった教会の営みにおいて、信仰の内省化がいかに促されうるかを論じる。特に、礼拝における祈りや説教が自己との対話を促す契機となりうる点を強調し、教会が単に教理伝達の場ではなく、霊的な省察の空間として機能することの重要性を述べる。

第三章では、日本のアニミズム的文化と自然の神学との接点から、自然を通じた信仰の内省の可能性を論じる。自然の中で神を想起し、被造物としての自己を省みることが、信仰の深化に寄与するという視点を提示する。特に日本では、これまで依存してきた論理的思考から感性的行動へと認識の変換が求められる。

第四章では、「スピリチュアル」とされる現代的傾向に触れつつ、キリスト教固有の霊性が持つ内的論理と自己対話の意義を検討する。信仰の内省化は、神との関係の中で自己の存在を問い直す営みであり、単なる心理的な内観ではなく、神の啓示と交わる霊的経験であると位置づける。

結論においては、教会が「霊性を重んじる空間」として、個人の内省的営みを支える存在であることの重要性を再確認し、バプテストにおける信仰と教会の関係性の再構築に資する視座を提示している。信仰の内省化は、信仰者が「自分が何を信じ、なぜ信じるのか」を問い続けるプロセスであり、それを可能にする教会の形成こそが、今後の最も重要な課題である。

指導教員：濱野道雄　教授

「これからの教会形成　―青年の現状を切り口に―」

原田　仰

バプテストの教会において、個人の信仰と共同体性は共に重要視されてきた。しかし、昨今の教会の状況を見れば、一つの教会があり続けることが困難な状況にあるといえる。そこにはさまざまな要因があると見受けられるが、私は信徒たちの共同体意識や教会を形成する意識が欠けている、あるいは現状の教会運営のあり方が信徒たちにとって自らの信仰の事柄との関係性を見出しづらいものになっているのではないかと仮定した。その上で本論文では以下の二点の問いを立てた。

１．現代を生きるものたちと教会との関係の中で、もし福音宣教の使命と「教会形成」の事柄の間に乖離が起きているのだとすれば、どのような要因があるのか。

２．それを踏まえた上でバプテストが持つ信仰観がこれからの教会形成において、何を形づくりどのように作用するものなのか。

また、それぞれの問いを深めるにあたって二つの軸を取り扱ってきた。一つが林の分類に倣った個人のスピリチュアリティに関連するものである。当事者の関心・動機である「問い」の側面と、それによって導かれる対象と領域である「答え」の側面がそれぞれ Spiritual の要件を満たしているか否か、その組み合わせによって見る軸である。「問い」が Spiritual であるというとき、それはその関心・動機が人生の深い領域、すなわち実存に関わる次元までに至っているということである。また「答え」が Spiritual であるというときその人の探求や活動が超越的な存在や関係に結びついているということになる。この組み合わせは 4 つの象限に分類される。この軸をもって教会と個人との関係における問題を探ってきた。第二の軸は Rathel が Emerging Church を分析することによって見出した教会論的視点に倣った軸である。1.共同体、2.礼拝・説教、3.宣教、4.リーダーシップの四つの視点からなる。

これらの軸から沿って見えてきたことは、現状の教会のあり方は個人の信仰において「答え」として神と結びつけることには概ね成功しているように見えるが、それに「問い」を深めること、深めた「問い」と結びつけることが伴っていない点である。それは信徒たちの礼拝奉仕や委員会活動、及び執事会への消極性という形で現れている。

これらのことから私たちは問い直される。今日、教会に来る人たちの「問い」にどれだけ向き合えているのだろうか。そして教会のさまざまな活動が本当に個人の「問い」に結びついたものになっているのか。

指導教員：濱野道雄　教授

修士論文要旨

「日本のバプテスト教会における牧師の働き ～神の宣教（ミッシオ・デイ）からみた「宣教的」牧師論～」

吉田　睿濫

本論文は、日本のバプテスト教会における牧師の存在意義の固有性を明らかにするために、特に神の宣教(ラテン語:Missio Dei）的教会論から出発し、それに基づいたバプテスト教会の牧師論を述べている。牧師論を語る際、必然的にその土台となる教会論を同時に語る必要がある。そして本論文で述べる教会論は神の宣教を根底とした教会論、すなわち教会が神の宣教と密接的な関係を持っていることから牧師論を語っている。

第１章では、クリストファー・J・H・ライトの思想を中心として、神の宣教の聖書的根拠を述べている。神の宣教は新約時代から始まったのではなく旧約時代におけるイスラエルからすでに起こっていた神と神の民のストーリーである。その関係性によって実行されていく神の宣教は二つの特性を持つ。すなわち普遍性と特異性である。これらの特性を聖書的に説明し、神の民であるイスラエル共同体と教会共同体の存在意義に触れている。

第２章では、前章で述べた神の宣教に基づいて、牧師論を語っている。特に教会において牧師必要性の度合いによって現れる思想について述べているが、牧師必要性を 100 とする牧師偏重主義と、0 とする牧師無用論を、それらの危険性とともに説明し、バプテスト教会の精神とどのような関係性があるのか図りつつ述べている。この章の後半では、神の宣教における牧師論について語るにあたって、マルチュリア（証し）との関係性の中にあることを具体的に述べている。「証しする教会」の形成の実現のために要求される牧師の役割についても触れている。

第３章では、実際に日本バプテスト連盟の加盟教会である福岡ベタニヤ村教会の歴史的経験について触れ、これまで語ってきた思想と照らし合わせながら、日本におけるバプテスト教会の牧師論について言及している。この章では、序章で立てた日本のバプテスト教会における牧師の固有性という問いの究極的答えについて触れている。終末に至るまで神の宣教は継続し、それゆえ教会も存在し続ける。終末における神の宣教の完成に伴って、牧師が究極的にどのような状態となるべきなのかを提唱している。

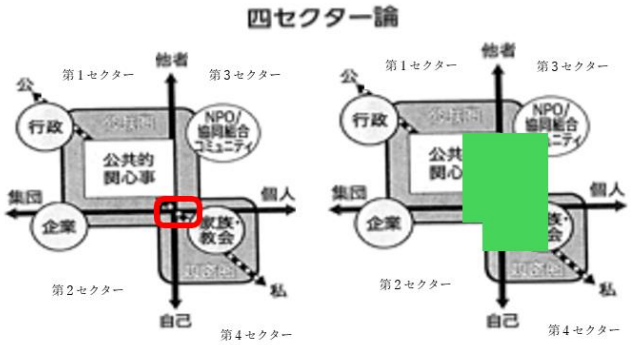
第 4 章では、結論としてこれまで触れてきた内容を整理している。特にバプテスト教会の理想的牧師像を考えるにあたって登場した思想の全体図を提示し、その関係性について簡略的に説明している。

指導教員：濱野道雄　教授

「公共神学の場としてのキリスト教学校 ～セクターの位置付けと連携～」

中島　瑞樹

J.E.バークハートは礼拝を、「神がかつて行われたこと、神が現在行いつつあること、神が将来行うと約束されたことに対する祭儀的な応答」だと説明した。その礼拝を私は卒業論文で、教会で行われている礼拝と学校で行われているチャペルを要素の数が異なるだけであり、質は変わらないため、同等であると結論づけた。そしてそこで、教会と学校で礼拝について連携できるのではないかと提言した。その連携をドイツの哲学者であるユルゲン・ハーバーマスの「公共宗教」の概念をもとに、教会と学校が礼拝において連携ができるのか、そしてできるのであればどういう方法があるのか、それらを明らかにする。第２章では、「キリスト教学校のセクターの位置付けについて」と題し、四セクター論についてまとめ、キリスト教学校のセクター位置について考察した。第３章では、公共神学と公共宗教についてまとめた。そのまとめから私は、キリスト教学校のこのセクター論での立ち位置が四角形から一つの角を取った形になり、「公共圏」は第 4 セクターの方向へもう少し広がるのではないだろうかと考えた（下図参照）。ここまでの理論に基づき、第４章においては具体的に、博物館と学校、教会と学校の連携について筆者の非常勤講師としての経験をもとにまとめた。ここで大切なことは、いずれも打ち合わせをしっかりして、目的や生徒の様子、指導内容などを明確にし、有意義にその時間を使うことである。そして提案や連携を進めるための「コーディネーター」的存在がいることにより、「連携のポイント」をしっかり整理・理解ができ、よりよい連携ができるようになるだろう。以上のことから明らかになったことは、下図においてキリスト教学校は第 2 セクター以外のセクターにはそれぞれ強い影響が与えられており、幅広く対応していると考えられる。とはいっても第２セクターにおいてもその要素は持ち合わせており、それを無視することはできない。ゆえに第２セクターにも接していることがわかる。以上のことから、下図の右側、塗りつぶした範囲がキリスト教学校の範囲になるのではないだろうか。また、今回私は公共神学によって、今までキリスト教会が引いていた境界ラインをキリスト教学校との「連携」という形で拡大できた。それによって、今まで教会や学校がするべきか、またできるのかという境界周辺が協力して、パワーアップして共に働けるようになったといえるだろう。連携によって良い発展につながるよう願っている。



稲垣久和、水山裕文、『閉塞日本を変えるキリスト教　公共神学の提唱』（いのちのことば社、2023 年）、173 頁。

左図の枠は仮説で、右図の塗りつぶしが結論。いずれも筆者が加筆。

指導教員：濱野道雄　教授

― 2026 年度 西南学院大学神学部入試案内 ―

【１年次一般入学（英語４技能利用型を含む）】
○出願期間：2026 年 1 月 6 日（火）～1 月 20 日（火）　○試験日：2026 年 2 月 4 日（水）及び 2 月 7 日（土）
１．神学（献身者）コース（キリスト教会信徒歴＊１年以上）
２．キリスト教人文学（一般学生）コース（信徒歴は問いません）

【１年次独自指定校推薦入学】
○出願期間：2025 年 11 月 1 日（土）～11 月 7 日（金）　○試験日：2025 年 11 月 24 日（月・祝）
※キリスト教学校教育同盟加盟の高等学校長または日本バプテスト連盟加盟教会牧師からの推薦を受けた者

【１年次総合型選抜入学】
○出願期間：2025 年 9 月 17 日（水）～9 月 25 日（木）　○試験日：2025 年 10 月 18 日（土）
※神学部を第一志望とし、入学してキリスト教と聖書を学ぶことを強く希望する者
※高等学校第３学年１学期（２学期制の場合は第３学年前期）までの全体の評定平均値が 3.8 以上の者

【２年次転・編入学】
○出願期間：2025 年 10 月 3 日（金）～10 月 10 日（金）　○試験日：2025 年 11 月 1 日（土）
※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊２年以上を有する者
※大学第１学年次修了者（32 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者

【３年次転・編入学（学士入学含む）・選科・専攻科】
○出願期間：2025 年 10 月 3 日（金）～10 月 10 日（金）　○試験日： 2025 年 11 月 1 日（土）
１．３年次転・編入学（学士入学含む）
※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊２年以上を有する者
※大学第２学年次修了者（62 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者、学士号を取得している者（見込含む）
２．選科生入学　高等学校卒業以上で 22 歳以上の献身者（バプテスト教会信徒歴＊２年以上）
３．専攻科入学　大学神学部卒業（見込含む）の献身者（キリスト教会信徒歴＊４年以上）

【神学部研修生（聴講生）】
キリスト教宣教の伝道者養成のため、主として社会人を対象とした研修生制度（詳細は教務課（092-823-3305）へお問い合わせください）

【神学部リカレント生（聴講生）】
2024 年度から始まった制度です。詳細は、p. 11「神学部リカレント生のご案内」をご覧ください。

＊「信徒歴」とは推薦教会における信仰生活を指します。**なお、これらの年限は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」のものとは必ずしも一致しておりませんので、お気を付け下さい。**
※神学コース志願者は、出願時に①牧師・伝道者としての召命・献身決意書、②所属教会の総会決議に基づく推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、③所属教会牧師の推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、④履歴書が必要となります。出願前に必ずキリスト教活動支援課（TEL 092-823-3336）までお問い合わせください。
※外国人留学生入学の制度もあります。お早めにお問い合わせください。

◎神学部入試に関するお問い合わせ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
入試課　TEL：092-823-3366　FAX：092-823-3388

― 2026 年度 西南学院大学大学院神学研究科 神学専攻博士前期課程及び博士後期課程入試案内 ―

【秋期（博士前期課程）】
一般・外国人等（国内居住者）及び社会人
○出願期間：2025 年 7 月 1 日（火）～7 月 11 日（金）　○試験日：2025 年 8 月 30 日（土）

【春期（博士前期課程）】
１．一般・外国人等（国内居住者）及び社会人
○出願期間：2026 年 1 月 6 日（火）～1 月 15 日（木）　○試験日：2026 年 2 月 21 日（土）
２．外国人等（国外居住者）
○出願期間：2025 年 10 月 1 日（水）～11 月 4 日（火）　○試験日：2026 年 2 月 21 日（土）

【春期（博士後期課程）】
１．一般・外国人等（国内居住者）及び社会人
○出願期間：2026 年 1 月 6 日（火）～1 月 15 日（木）　○試験日：2026 年 2 月 20 日（金）
２．外国人等（国外居住者）
○出願期間：2025 年 10 月 1 日（水）～11 月 4 日（火）　○試験日：2026 年 2 月 20 日（金）

◎大学院入試に関するお問い合わせ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
大学院課　TEL：092-823-3368　FAX：092-823-3348

2024 年度 開講科目表

【神学部神学科】

科　　目	担 当 者
キリスト教神学への招待Ａ	踊　真一郎講師
キリスト教神学への招待Ｂ	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ日原広志教授
旧約概論Ａ／Ｂ	日原広志教授
新約概論Ａ／Ｂ	濱野道雄教授
キリスト教史概論Ａ／Ｂ	Ｇ．ロドリゲス准教授
組織神学概論Ａ／Ｂ	濱野道雄教授
実践神学概論Ａ	才藤千津子教授
実践神学概論Ｂ	濱野道雄教授
ヘブライ語Ⅰ・Ⅱ	日原広志教授
ギリシア語Ⅰ・Ⅱ	石橋誠一講師
外書講読Ａ／Ｂ	Ｇ．ロドリゲス准教授
外書講読Ｃ／Ｄ	ファン ナムドク教授
旧約釈義Ｃ／Ｄ	日原広志教授
旧約神学Ａ／Ｂ	藤方玲衣講師
旧約原典Ａ／Ｂ	藤方玲衣講師
新約釈義Ｃ／Ｄ	須藤伊知郎教授
新約神学Ａ／Ｂ	須藤伊知郎教授
新約原典Ａ／Ｂ	須藤伊知郎教授
教会史Ａ／Ｂ	金丸英子教授
教理史Ｃ／Ｄ	金丸英子教授
バプテスト史Ａ／Ｂ	金丸英子教授
教義学Ａ／Ｂ	ファン ナムドク教授
キリスト教倫理学Ａ／Ｂ	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ濱野道雄教授
現代神学Ａ／Ｂ	ファン ナムドク教授
フェミニスト神学	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ日原広志教授
説教学Ａ／Ｂ	濱野道雄教授
礼拝学Ａ	越川弘英講師
牧会学Ａ／Ｂ	才藤千津子教授
教会教育Ａ／Ｂ	中條智子講師
実践神学Ａ	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ濱野道雄教授
実践神学Ｂ	水野英尚講師
キリスト教社会福祉論	滝口　真講師
総合人間学Ａ／Ｂ	Ｇ．ロドリゲス准教授
日本キリスト教文学Ａ／Ｂ	藤方玲衣講師
キリスト教音楽Ａ／Ｂ	麦野達一講師
教会音楽研究Ａ／Ｂ	福田のぞみ講師
特殊講義（１）	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ濱野道雄教授
演習Ｃ／Ｄ（１）	須藤伊知郎教授
演習Ｃ／Ｄ（２）	金丸英子教授
演習Ｃ／Ｄ（３）	ファン ナムドク教授
宗教学Ａ／Ｂ	大坪哲也講師
英会話Ａ／Ｂ	Ｍ．クープ講師

科　　目	担 当 者
宗教心理学Ａ／Ｂ	才藤千津子教授
カウンセリングＢ	才藤千津子教授
西南学院史（１）	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ北垣徹教授
宗教科教育法	野口　真講師
宗教科指導法Ⅰ・Ⅱ	才藤千津子教授

【神学専攻科】

科　　目	担 当 者
旧約学特殊講義Ａ／Ｂ	日原広志教授
新約学特殊講義Ａ／Ｂ	須藤伊知郎教授
聖書学特殊講義Ａ／Ｂ	藤方玲衣講師
聖書学特殊講義Ｃ／Ｄ	須藤伊知郎教授
旧約原典研究Ａ／Ｂ	藤方玲衣講師
新約原典研究Ａ／Ｂ	須藤伊知郎教授
教会史特殊講義Ａ／Ｂ	金丸英子教授
教理史特殊講義Ａ／Ｂ	金丸英子教授
バプテスト史特殊講義Ａ／Ｂ	金丸英子教授
キリスト教社会倫理Ａ／Ｂ	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ濱野道雄教授
牧会学特殊講義Ａ／Ｂ	才藤千津子教授
牧会学実習	才藤千津子教授
牧会心理学Ａ／Ｂ	才藤千津子教授
説教学演習	濱野道雄教授
教会形成論特殊講義Ａ／Ｂ	濱野道雄教授
キリスト教教育学特殊講義Ａ／Ｂ	中條智子講師
教会音楽特殊講義Ａ／Ｂ	麦野達一講師
教会音楽特殊研究Ａ／Ｂ	福田のぞみ講師
特殊講義（１）	ファン ナムドク教授
特殊講義（２）	須藤伊知郎教授
特殊講義（３）	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ濱野道雄教授
特殊講義（４）	水野英尚講師
特殊講義（５）	Ｇ．ロドリゲス准教授
特殊講義（８）	ファン ナムドク教授
演習Ａ／Ｂ	須藤伊知郎教授

【大学院神学研究科】

科　　目	担 当 者
神学特別講義	日原広志教授
神学研究指導	須藤伊知郎教授
牧会心理学特論Ⅰ・Ⅱ	才藤千津子教授
神学演習	濱野道雄教授
旧約学特論	日原広志教授

2024 年度 神学部報告

2024 年

4 月 1 日 大学入学式、神学部始業礼拝（大学チャペル）、開講講演（日原広志教授、大学チャペル）、大学院ガイダンス
5-8 日 新入生オリエンテーション（大牟田敬愛園など）
9 日 前期授業開始
22 日 ユダヤ教過越祭セデル実習
27 日 神学部春の親睦会（大濠公園鴻臚館跡）

5 月 13 日 ジョナサン・マゴネット先生（レオ・ベックコレッジ名誉教授）ロングチャペル
22 日 神学部卒論、修論 構想発表会

6 月 3 日-7 月 1 日 西南コミュニティカレッジ 神学部提供「パレスチナ問題と宗教」全 5 回講座
3-8 日 神学コース体験入学
10-11 日 日本バプテスト連盟 2023 年度第 1 回理事会(オンライン・才藤神学部長陪席)
21 日 神学校週間を覚える集い(福岡地方連合壮年会・神学部学生会との共催) ハイブリッド
23-30 日 神学校週間

7 月 1 日 神学部ロングチャペル マウン・マウン・イン先生(ミャンマーバプテスト連盟前理事長、ミャンマー神学校元副校長)
3 日 人文学コース卒業生による就職説明会
22 日 前期授業終了
23 日-7 月 31 日 前期試験

8 月 2 日-9 月 26 日 夏期休暇
3-4 日 オープンキャンパス
12 日-15 日 東アジア平和センター・福岡主催アジア青年平和学校(韓国・チョロン、国境線平和学校)
24 日 第 58 回全国壮年大会 オンライン

9 月 5 日 神学部ファカルティ・デベロップメント(FD) 研修、ファカルティ懇談会
24-25 日 神学部学生会野外研修会(島原城址見学など)
25 日 前期卒業式
26 日 後期授業開始
26 日 神学教育に関する連絡協議会 ハイブリッド
27 日 連盟・宣研・神学部 三者協議会
28 日 常務理事と神学生の懇談会

10 月 1-2 日連盟第 2 回理事会(オンライン・神学部長陪席)
8 日 学生とのカリキュラム懇談会
9 日 神学教育協議会
16 日 伝道者養成に関する委員会（オンライン・神学部長陪席）
16 日 神学部卒論・修論 中間発表会
19 日 総合型選抜入試
21 日 神学部ミッションデー 講師：ジェフリー・メンセンディーク先生（桜美林大学チャプレン）

11 月 2 日 2、3 年転編入、学士入学、選科、専攻科生入試
7-9 日 大学祭
11 日 神学部ロングチャペル 佐々木和之先生（日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア・ルワンダ）
23 日 学校推薦型選抜入試（指定校推薦他）

12 月 6 日 神学部公開シンポジウム（ハイブリッド）「『クイア神学』は何をするのか～教会と異性愛主義」
7 日 外国人等入試
13 日 神学部クリスマス礼拝・祝会（神学寮）
24 日 大学クリスマス・キャンドルサービス
25 日 キリスト降誕祭（全学休講）
26 日-2024 年 1 月 5 日 冬期休暇

2025 年

1 月 6 日 授業再開
22 日 学部卒業論文・修士論文提出締切
22 日 後期授業終了
23-31 日 後期試験
31 日 神学部卒論、修論 最終発表会

2 月 5-8 日大学入学試験(5 日は神学部一般入学試験)
7-8 日 第 70 回日本バプテスト連盟定期総会（オンライン）
11 日 神学部出張公開講演（関西地方連合）
17-18 日連盟第３回理事会（オンライン・才藤神学部長陪席）
22 日 大学院入試（修士）
24 日 福岡地方連合協力伝道会議「どげんすっと？宣教協力」神学部共催
25-3 月 1 日 新任牧師主事研修会（宣教研究所）

3 月 7-8 日 神学校入学前研修会
18 日 実践神学担当者懇談会・近隣教会懇談会・助言者の会
11-13 日 日本クリスチャン・アカデミー主催、神学生交流プログラム（西南学院大学）
17 日 実践神学担当者懇談会・近隣教会懇談会・助言者の会
19 日 神学部卒業礼拝 （説教者：松本福音村教会 黄基英牧師）
21 日 大学卒業礼拝・卒業式

＜神学部報告より＞

2024 年度　西南コミュニティカレッジ　神学部提供「パレスチナ問題と宗教」（6 月 3 日より全 5 回講座）

2024 年度、神学部では、西南コミュニティカレッジにおいて、パレスチナ紛争でパレスチナの歴史に宗教がどのように関わって来たのかを振り返り、平和を作り出すために宗教に何ができるのか、そのためのキリスト教の課題は何かについて考える連続講座をオンライン形式で実施いたしました。各回のテーマは、「イスラエル・パレスチナ紛争の歴史」「ヘブライ語聖書におけるイスラエル共同体：異なる者の努力」「キリスト教から見たパレスチナ問題」などでした。受講者 57 名。

2024 年度　神学部主催公開シンポジウム　「『クイア神学』は何をするのか～教会と異性愛主義」

2024年12月6日、神学部では、教会の中にある異性愛主義、性別二元論・家父長制に問いを投げかけ、ひいては伝統的な神学のあり方をも問うことを目的として公開シンポジウムを開催いたしました。講師として、堀江有里さん（日本基督教団牧師、信仰とセクシュアリティを考える会代表、主著『「レズビアン」という生き方――キリスト教の異性愛主義を問う』）と工藤万里江さん（大学非常勤講師、主著『クィア神学の挑戦――クィア、フェミニズム、キリスト教』新教出版社、2022年）をお招きしました。会場参加は35名、オンライン参加は約67名でした。

2024 年度　大牟田敬愛園インターンシップ

神学部では、本年度から社会福祉法人キリスト者奉仕会　大牟田敬愛園のご協力のもと、障害者施設での短期（１～２日）、中期（５日間）のインターンシッププログラムを始めました。このインターンシップは、大牟田市インターンシップ支援事業を活用して実施されるもので、施設での就業体験を通して、学生たちに福祉の仕事や社会への理解を深めることを目的としています。神学部の学生と本学人間科学部社会福祉学科の学生が協力し合いながら共に参加しています。

2024 年度　神学部ミッションデー

2024 年 10 月 21 日(月)、ジェフリー・メンセンディーク先生(桜美林大学准教授・チャプレン/米国合同教会宣教師)を講師にお迎えして、ミッションデーを開催しました。今年は、午前中の礼拝の後、午後には「ディグニティ・モデル」を学ぶ試みとして、メンセンディーク先生に「尊厳を可視化するワークショップ」を行っていただきました。参加者は約 20 名でした。

2024 年度　神学部ロングチャペル

2024 年度は、ロングチャペルの講師として 3 人の先生方をお迎えしました。第１回（5 月 13 日）は、ジョナサン・マゴネット先生（レオ・ベックコレッジ名誉教授）。第２回（７月 1 日）は、マウン・マウン・イン先生(ミャンマーバプテスト連盟前理事長、ミャンマー神学校元副校長)。第３回目（11 月 11 日）は、佐々木和之先生（日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア・ルワンダ）がそれぞれ説教をしてくださいました。

神学部リカレント生のご案内

神学部では、昨年度から、卒業後教育の一環として、次期赴任に向けて待機されている牧師、また牧会する教会を離れての研修期間や休暇(サバティカル)をとられる牧師などを対象として、「リカレント生」制度を開始しました。リカレント生は大学の制度上は聴講生です。現場での貴重な経験を基にして、神学部や大学院神学研究科で学び直しながら、ご自分の牧会を振り返ったり、学びのリフレッシュの時を持ったりしていただけると幸いです。詳細は、神学部長までお尋ねください。(メール: hihara@seinan-gu.ac.jp)

神学部出張公開講演のご案内

かねてより神学部では、全国の「地方連合」枠で、年２回を目途に出張公開講演を行ってまいりました。今年度は、**ファン ナムドク教授（組織神学）**と**才藤千津子教授（牧会学）**の二人の教員が出張講演を担当いたしますので、ぜひお申込みくださいますようにお願い申し上げます。

講演者の交通費・宿泊費はすべて当方で負担いたします。また、講演料は不要です（但し、当該講演の前後に設定された別枠での御奉仕― 例えば礼拝説教奉仕等― についてはこの限りではありません)。なお、zoom などインターネットを利用して講演会を実施することもできます。

神学部では、この出張公開講演が全国諸教会の皆さまと神学部とを結ぶ架け橋の一つとなることを願っております。貴地方連合がこの機会を「将来伝道者になる人々」と神学部の出会いの場としてもご利用くださいますよう、ご案内申し上げます。

お申し込みの際は、私どもまで、ご希望の時期・主題・講師等を具体的にお伝えください。今年度の講演テーマは下記の２つです：「神の宣教(Missio Dei)における教会の時代的課題と役割」（ファン）、「教会とハラスメント～共に生きる教会形成のために」（才藤）

ご連絡は、神学部長宛てメール（hihara@seinan-gu.ac.jp 件名＝「出張公開講演の件」）にて、お願いいたします。（なお、できるだけご希望に沿うよう努めますが、組み合わせ次第ではそうならない場合もありますことを予めご了承ください。）

在主　神学部長　日原広志

2024 年度 研究・活動・消息（就任順）

須藤　伊知郎　教授

◆執筆
・「『御国の子ら』って誰？―2024 年 9 月 30 日神学部チャペル説教」神学部学生会誌『道』49 号（2024.11.1）6-7 頁（https://www.seinan-gu.ac.jp/rel/Michi2024）
・「ご挨拶」『西南学院大学管弦楽団第 62 回定期演奏会プログラム』西南学院大学管弦楽団（2024.12.7）

◆講演
・北海道バプテスト研修センター第 16 回信徒セミナー「体験！神学校 ～じっくり学ぶ新約聖書～ マタイは何が言いたかったか？―マタイ福音書の新しい読み方」（2024.7.25～26）
・„Amen, dieser Mensch ist Gottes Sohn gewesen!“ — eine Exegese von Mk 15,39（Oberseminar von Prof. Dr. Matthias Konradt, Heidelberg, 2025.2.8）

◆説教
・神学部チャペル（2024.9.30）
・全学チャペル（2024.12.11）

◆消息
・西南学院評議員
・情報処理センター委員
・西南学院管弦楽団部長
・日本新約学会理事
・西日本新約聖書学会理事
・日本聖書学研究所所員
・日本基督教学会理事・学会賞選考委員長（～2024.9）
・ＮＴＪ新約聖書注解シリーズ監修（福音書行伝グループリーダー）
・安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会（http://seinan-gu.jimdo.com）呼びかけ人
・福岡西部バプテスト教会員

金丸　英子　教授

◆執筆
・日本バプテスト連盟『聖書教育』10 月号「バプテストという仕方で・・・」
・神学部『道』「『交わり』について考えた」
・『新版　キリスト教大辞典』担当執筆（９項目、2024.7.31 脱稿）

◆研修会・聖書研究会
・バプテスト東京連合壮年会（2025.1.25）
・バプテスト南九州連合社会委員会 2.11 集会（2025.2.11）
・長住バプテスト教会研修会（2025.1.23）
・日本バプテスト連盟新入生入学前研修会（2025.3.7~８）
・福岡バプテスト教会汀幼稚園教員のための聖書入門講座（2024.6.7,11.15
・福岡バプテスト教会コイノニア会聖書研究会（月例）

◆説教
・神学部チャペル説教（於大学チャペル、2023.4.10）
・大学チャペル講話（2024.10.1）
・福岡バプテスト教会主日礼拝（於福岡バプテスト教会、2024.5.14、）
・大井バプテスト教会主日礼拝（2025.1.26）
・長住バプテスト教会主日礼拝（2025.2.23）
・日本バプテスト連盟新入生入学前研修会閉会礼拝（2025.3.8）

◆消息
・大学院神学研究科科長
・大学院委員会委員
・大学院 FD 委員会委員
・大学図書館委員
・西南学院史委員会委員
・一麦奨学金委員会委員
・大学神学寮寮監
・西南学院大学寮運営委員会委員
・大学全学点検評価委員会委員
・西南学院資料センター運営委員会委員
・西南学院資料センターバプテスト資料保存･運営委員会委員長
・関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員
・福岡バプテスト教会員
・日本基督教学会会員
・日本キリスト教史学会会員
・アメリカ学会会員
・American Association of Religion 会員
・American Society of Church History 会員
・Baptist History and Heritage 会員
・Baptist Historical Society 会員
・Commission on Baptist Heritage and Identity, Baptist World Alliance
・Commission on Baptist Doctrine and Christianity, Baptist World Alliance

日原　広志　教授

◆執筆
・「キリストのからだなる教会の献身～協力伝道の縮図としての神学寮」神学部学生会誌『道』第 49 号（2024.11）

◆講演・発題
・日本キリスト教団北九州地区信徒研修会「いま、旧約聖書と新たに出会い直す」講演ⅰ「いま、教会が旧約聖書を読む意味」講演ⅱ「ヘブライ語聖書における平和」（於北九州復興教会、2025.1.13）
・日本バプテスト連盟関西地方教会連合社会委員会主催２・１１信教の自由を守る日の集会兼西南学院大学神学部出張公開講演「旧約聖書から『信じない自由』を考える」（於日本バプテスト大阪教会、2025.2.11）

◆説教
・福岡有田バプテスト教会（2024.8.18, 12.24）
・福岡城西キリスト教会（2024.9.1）
・神学部チャペル（2024.11.18）
・西南学院大学チャペル（2024.12.12）

◆消息
・日本旧約学会員
・日本基督教学会員（九州支部会幹事）
・大学学科主任
・大学学術研究所委員
・大学論集編集委員
・大学聖書植物園管理運営委員
・大学一般教育委員
・大学院委員
・大学授業評価検討委員
・大学親交会委員
・福岡有田教会員

濱野　道雄　教授

◆執筆

・「佐々木さんの取り組みの意義とこれからの展望、あるいは期待について」、「佐々木さんを支援する会」会報『ウムブエ』70 号（2024.10）

・「序」『チャペル講話集』第 58 号、西南学院大学総務部キリスト教活動支援課（2025.3）

◆講演・発題

・「パレスチナ問題とキリスト教」古賀バプテスト教会 初夏のキリスト教の集い（於日本バプテスト連盟 古賀バプテスト教会、2024.6.23）

・「キリスト教から見たパレスチナ問題」西南コミュニティーカレッジ 神学部提供講座『パレスチナ問題と宗教』（於西南学院大学コミュニティーセンター、2024.7.1）

・「パレスチナの平和を願ってー「イスラエル」について考えるー」、日本基督教団 北九州地区 平和集会（於九州キリスト教会館北九州分室、2024.8.10）

・「主の晩餐についての学び会：オープン、クローズを中心に 」、平塚バプテスト教会学び会、（於平塚バプテスト教会、2024.8.18）

・「生徒・学生の物語と聖書の物語の出会い ― キリスト教学校で大切にしたいこと」、キリスト教学校教育同盟主催 第４回キリスト教活動担当事務職員研修会、（於西南学院大学、2024.9.11）

・「実際の取組についてーアンケートを基に」、キリスト教学校教育同盟主催 第４回キリスト教活動担当事務職員研修会、（於西南学院大学、2024.9.12）

・「キリスト教と原子力について：アジアにおける日本の戦争責任と市民連帯の視点から」、福岡女学院大学 オムニバス講義 「異文化へのアプローチ（アジア）ーアジア共同体の平和」（於福岡女学院大学、2024.11.8）

・「宗教的ナショナリズムを考える ―パレスチナ・天皇制・原理主義―」、ちくごキリスト者平和の会主催 ２・１１ 信教の自由を守る集会（於日本キリスト教団 久留米東町教会、2025.2.11）

・「パレスチナの平和を願ってーイスラエルについて考えるー」、日本基督教団 九州教区教師研修会（於日本基督教団八代教会、2025.2.27）

◆説教

・西南学院大学チャペル（2024.4.10）

・日本バプテスト連盟 古賀バプテスト教会礼拝（2024.5.7）

・日本バプテスト連盟 筑紫野二日市キリスト教会（2024.7.21）

・日本バプテスト連盟 平塚バプテスト教会礼拝（2024.8.18）

・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2024.8.1）

・日本バプテスト連盟 かたえキリスト教会礼拝（2024.9.29）

・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2024.12.1）

・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.1.19）

◆消息

・西南学院大学 宗教部長（2023.4-2025.3）

・西南学院大学 聖書植物園管理・運営委員会委員長

・鳥栖キリスト教会協力牧師

・日本バプテスト連盟 東日本大震災被災地支援委員会委員

・福岡地方バプテスト連合 社会委員会委員長（2023.5-2025.3）

・東京バプテスト神学校 講師

・学校法人 神愛学園みくに幼稚園 理事・評議員（2024.4-）

・日本基督教学会会員

・日本基督教学会 九州支部幹事

・日本新約学会会員

・日本宣教学会会員

・日本実践神学会会員

・公共哲学・公共宗教（神学）研究会会員

才藤　千津子　教授

◆執筆

・随筆「名も知れぬ死者を悼むために～「ほうせんか」の活動」（神学部学生会誌『道』第 49 号、2024.11）

・発題報告「大学の現場から～ゆるやかな支援のネットワークの形成　第 36 回学会大会フォーラム～キリスト教教育とカウンセリング」日本キリスト教教育学会『キリスト教教育論集第 33 号』（2025.3）

・随筆「混迷の時代のなかで～『変わらないもの』と『変わるべきもの』」（日本バプテスト連盟「全国壮年会連合ニュースレター第 134 号、2024.12）

◆書評

・「木原活信著『ジョージ・ミュラーとキリスト教社会福祉の源泉―「天助」の思想と日本への影響』（教文館、2023 年 ）」日本基督教学会『日本の神学』第 63 号（2024.9.）

◆講演・発題など

・講演「呼ばれています～私のライフ・デザイン」西南女学院短期大学・大学 春期ミッションデー(2024.5.15-16)

・発題「大学の現場から～ゆるやかな支援のネットワークの形成」日本キリスト教教育学会フォーラム『キリスト教教育とカウンセリング』（於同志社大学、2024.5.31）

・企画・司会　西南コミュニティーカレッジ 神学部提供講座『パレスチナ問題と宗教』（於西南学院大学コミュニティーセンター、2024.6-7）

・講演「カウンセリングとは何か」日本バプテスト連盟鳥飼バプテスト教会　第 3 回教育研修会（2024.10.27）

・企画・司会 神学部主催　公開シンポジウム「クィア神学」は何をするのか――教会と異性愛主義」（於西南学院大学、2024.12.6）

・講演「グリーフとグリーフケアについての理解を深める」社会福祉法人京都いのちの電話第 46 期生研修会（於京都いのちの電話、2025.2.15）

・シンポジウム発題「教会とハラスメント」日本バプテスト連盟福岡地方連合「第 7 回どげんすっと宣教協力～『すべての人のための教会形成』」（於日本バプテスト連盟春日原教会、2025.2.24）

・講演「これからのクリスチャン・リーダーシップ～自らの弱さと共に歩む」日本クリスチャンアカデミー　第 14 回神学生交流プログラム（於西南学院大学、2025.3.11-12）

◆説教・奨励

・2023 年度神学部始業礼拝（於大学チャペル,2023.4.1）

・西南女学院中学校・高等学校チャペル(2024.5.16)

・西南学院大学チャペル（2024.7.3）

・日本バプテスト連盟野方キリスト教会主日礼拝（2024.7.28）

・日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会・大名クロスガーデン主日礼拝（2024.9.20,2025.2.23）

・日本バプテスト連盟鳥飼バプテスト教会主日礼拝（2024.10.27）

・西南学院大学神学部チャペル（2025.1.20）

・西南学院高等学校卒業礼拝（2024.2.28）

◆その他
・西南学院大学『Seinan Spirit 213 号』「マイアンサー　幸せ✖聖書」(2024.12)
◆消息
・平尾バプテスト教会協力牧師（2018.5.～現在）
・一般財団法人日本バプテスト連盟医療団理事（2024.6.～現在）
・社会福祉法人久山療育園評議員（2018.～現在）
・社会福祉法人福岡いのちの電話評議員（2024.6.～現在）
・Pastoral Psychology 誌編集委員（2013.7.～現在）
・日本実践神学会運営委員（2022.4.～現在）
・日本基督教学会学会誌編集委員(2024.9.～現在)
・日本基督教学会会員
・日本キリスト教教育学会会員
・大学国際化推進委員会委員
・大学全学点検評価委員会委員
・大学教学マネジメント委員会委員
・大学研究マネジメント委員会委員
・大学全学入試委員会委員
・大学院委員会委員
・大学キャリアセンター委員
・大学博物館運営委員
・神学部一麦奨学金委員会委員
・日本バプテスト連盟　福岡地方連合「ハラスメント防止・啓発・情報窓口」担当

ヒラルド　ロドリゲス　准教授
◆講演・発題
・「ラテンアメリカにおける仏教への入信過程について―キューバの事例を中心として」（スペイン語）Red Iberoamericana de Estudios del Budismo（イベロアメリカ仏教研究会）オンライン発表会、2025.2.4　(2025.3 公開)
◆随筆
・「グローバルな視点から過去と現在を理解してみる」『道』49 号（2024.11）
・“Conversión religiosa al budismo en Latinoamérica: Motivaciones iniciales en la afiliación a la Soka Gakkai en Cuba”. In J. Vallverdú & D. Millet (eds.), *Estudios budistas en América Latina y España (vol. II)*. Tarraganona: Publicacions Universitat Rovira i Virgili & Fundación Dharma Gaia, 2024.
◆国内調査
・キリスト教と日本宗教の宗教間対話の研究－福岡市早良区大字西円珠院現地調査（2024.4~2025.2）
◆説教
・神学部チャペル説教（2024.3.15）
・神学部チャペル説教（2024.12.23）
・大学チャペル講話（2025.1.9）
◆消息
・大学国際センター運営委員
・大学『神学論集』編集委員
・大学院委員
・日本基督教学会員
・「宗教と社会」学会員
・国際宗教社会学会員
・早良キリスト教会員

黄南徳（ファン　ナムドク）　教授
◆執筆
・「Think Globally, Act Locally」（神学部学生会誌『道』第 49 号、2024.11）
・「非武装地帯で歌われる平和の歌」（日本キリスト教会福岡城南教会だより第 93 号、2024.12）
・「東アジア平和運動の課題と展望：アジア青年平和学校を中心に」（神学論集 第 82 巻　第 1 号、2025.3）
◆講演・発題
・「イスラエル･パレスチナの紛争の歴史」（神学部、オンライン形式、2024.6.3）
・「今日のパレスチナ情勢をどうみるか: イスラエル･パレスチナの紛争の歴史」（日本キリスト教会 福岡城南教会、2024.7.21）
・第 3 回アジア青年平和学校の講演（韓国、2024.8.13）
・「第 3 回アジア青年平和学校の意味」（日本バプテスト連盟福岡国際キリスト教会糸島集会、2024.10.13）
・「第 3 回アジア青年平和学校の評価と展望」（日本キリスト教会福岡城南教会、2024.11.17）
・「第 3 回アジア青年平和学校の評価と展望」（日本キリスト教会福岡筑紫野教会、2024.11.24）
◆説教
・神学校週間を覚える集い（2024.6.21）
・神学部チャペル（2024.7.22）
・福岡城南教会（2024.7.28, 2025.1.19）
◆消息
・大学学生主任（2024.4～現在）
・大学キャリアセンター委員（2024.4～現在）
・大学学生相談室運営委員（2024.4～現在）
・日本キリスト教会エキュメニカル宣教協力者
・日本キリスト教会九州中会ヤスクニ問題特別委員会委員
・東アジア平和センター・福岡センター長
・日韓反核平和連帯会員

藤方　玲衣　講師
◆講演・発題
・神学部公開シンポジウム「「クィア神学」は何をするのか」応答発題（2024.12.6）
◆執筆
・公開シンポジウム報告資料「「クィア神学」は何をするのか」（神学論集　第 82 巻 1 号、2024.3）
◆研修会・講座
・神学部提供講座「パレスチナ問題と宗教」第 2 回「ヘブライ語聖書におけるイスラエル共同体：異なる者たちの共存」（西南コミュニティーカレッジ、2024.6.10）
・学部等横断提供講座 「社会を変える　大人のための探求講座」第 3 回「人権とキリスト教」
（西南コミュニティーカレッジ、2024.11.22）
◆講話
・大学チャペル「「わからない」という希望」（2024.4.17、チャペル講話集 58 に収録）
・平尾バプテスト教会礼拝「苦難の中の啓示 希望と賛美――エリフの言葉から」（2025.2.2）
◆消息
・大学言語教育センター運営委員
・大学ラーニングサポートセンター運営委員
・西南学院資料センターバプテスト資料保存･運営委員
・日本旧約学会会員
・日本聖書学研究所所員
・日本基督教学会会員

書　評

ヘブライ語聖書に触れたいひとへの三位一体の福音

『超入門　ヘブル語のススメ』／『ヘブル語　語彙集』／『超実践　ヘブル語文法の手ほどき』

城倉啓 著／いのちのことば社 2022 年、2023 年、2024 年

神学部専任講師　藤方　玲衣

本書（関連書 3 冊）は、牧師の業務の傍ら、ヘブライ語を教え続けている（2005 年～）著者城倉啓さんが、「初めてヘブル語に触れる人が、独力で旧約聖書の原文を読めるようになることを目指して」つくりあげた「超入門」書です。『超入門　ヘブル語のススメ』が文法事項の解説であり、学習の入り口になっています。副読本として、『ヘブル語　語彙集』と『超実践ヘブル語文法の手ほどき』が刊行されています。『語彙集』は、聖書に登場する語彙をすべて網羅しており、日本語で基本的な意味が調べられ、より専門的な辞書への手引きとして有用です。『手ほどき』は、実際の聖書の文言を丁寧に読み解いていく学習帳形式となっています。『ススメ』、『語彙集』を参照しつつ『手ほどき』で実践していくという学習形態が想定され、独学者への配慮に満ちていると言えます。仕事をしつつ独学を始めたものの、思うに任せずに留学したという城倉さんの経験が活かされているのでしょう。留学時に出会った恩師は、文法の大要を掴むことが肝要であるとして、文法規則の 70%ほどに情報を削った自作の教科書を用いていたとのことです。『ススメ』も、入門書として情報を絞り込み、まず階段の一段目をのぼる、というような目標を設定しています。また、原典講読（「暗号解読」と表現されています）にあたって必要な「道具」がどこに載っていたかを「うっすら覚えておくだけで十分」（「はじめに」）とも言ってくれます。本書では、解読のために有用、かつ利便性が考慮された「道具」が確かに提供されています。原文に取り組む際に戸惑いやすい事項を「フローチャート」形式で随所にまとめてあるのですが、これはありがたいです。例えば、ダゲシュという点がついている文字はどう読むかなどの奇怪な法則（30 頁）や、未知の単語と遭遇した際に辞書の見出し語を判定する方法（146 頁）などです（ヘブライ語は、辞書を引くことも簡単には許してくれません。ここで嘆きの淵に沈んだ数多の人々のための福音がここにあります）。読者の実用性を考えたすてきな思い遣りが伝わります。また、「動詞の全体像」が一枚の頁にまとめて提示してあり（145 頁）、ひとめでヘブライ語の動詞構造（日本語や西欧諸語とは似ても似つかない）を掴むことができるようになっています（ヘブライ語は客観的な「時制」で動作を区分けせず、「視座」〈主観的な気持ち〉で区分する、という説明も分かりやすいです！）。

ヘブライ語聖書に原典で触れてみたいと願うひとが皆、文法事項の専門家になる必要はありません（研究者の仕事がなくなります）。学習の時間も限られていることが多いでしょう。ヘブライ語という言語はそれ自体専門的な位置づけであるからでしょうか、文法書となると大部なものになりがちです（最近は簡便な入門書も刊行され始めました）。この 3 冊には、独習者へのあたたかいまなざしがあり、「ヘブライ語嫌い」にさせたくないという思いが満ちています。

卒業予定者の招聘について

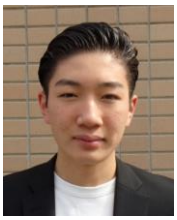
卒業予定者の赴任先については、原則として、神学部長が日本バプテスト連盟常務理事と協議の上、その紹介にあたっています。招聘についてのお問い合わせは、直接下記にご連絡ください。なお神学生が神学の学びに集中できるよう、お問い合わせは卒業年度に入ってからお願い致します。

【連絡先】神学部長　日原　広志
住　所：〒814-8511 福岡市早良区西新 6-2-92
西南学院大学　学術研究所
メール：hihara@seinan-gu.ac.jp

2025 年度 西南神学生だより

新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。

なお、神学部学生会へのお問合せは s27sa001@seinan-gakuin.jp<会長アドレス>までお願いします。



神学研究科博士前期課程(修士)1 年
長尾　基詩
推薦教会：府中キリスト教会
研修教会：長住バプテスト教会

昨今、言葉が軽くなっていると感じます。フェイクニュースが溢れ、為政者の声明は 3 日後には翻り、SNS の無限の情報は検証不可能です。聖書が書かれた時代、言葉というものはこれらと隔絶した重みを持っていました。簡単にやり直しの聞かない文字は熟慮の末に書かれました。浅薄な言葉が横溢する中、聖書は重みのある言葉として私達に迫ってきます。今日、み言葉と真剣に向き合うキリスト者としての責任を感じます。

神学部４年　　伊藤 健一
推薦教会：日本キリスト教会福岡城南教会
研修教会：日本キリスト教会福岡城南教会

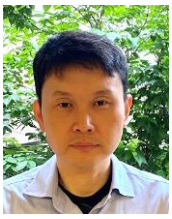
4 年次を迎え、卒業論文を提出する年度となりました。しかし、未習の神学領域がまだ残っているので、授業も多く履修させていただいています。

西南学院大学神学部での学びは厳しくも楽しく、充実した日々を送らせていただいております。本年度は、所属教会で説教奉仕をする機会が増えます。本学での学びをその奉仕のために還元できるよう努力したいと思います。よろしくお願いします。

選科３年　　石原　誠
推薦教会：常盤台バプテスト教会
研修教会：伊都キリスト教会

2024 年度の後期を体調不良のため休学する事になりましたが、多くの方々の心からの篤いお祈りとお支えのお陰で、4 月から復学することが出来ました。苦しみもありましたが、それ以上に主の護りと愛を実感させられる貴重な時が与えられ、この歩みもまた主のご計画なのだと感謝しております。

最終学年に入りますが、十字架と復活のイエス・キリストに倣い、主に信頼し主にお委ねし、み旨に従いまっ直ぐに歩んでいきたいと願っております。



選科２年　　大野　学
推薦教会：釧路キリスト教会
研修教会：西戸崎キリスト教会

昨年度、神学部での学び・長住バプテスト教会での研修・神学寮での生活を通じ私を造り変えてくださった主を誇ります。今年度は、学業の面では先生方のご指導により徹底して聖書を批判的かつ正確に読み自己中心的な読み方から脱し、聖書が、今に生きる私たちに何を語りかけているかを多角的に読み取る力とそれを支える辛抱強さを培い、神学寮の生活では神学生が信仰によって、互いに違いを認めつつ共に励まし合える関係を築くこと、そして今年度、研修教会として受け入れていただく西戸崎キリスト教会ではどんな困難な状況にある教会に遣わされても通用する牧会術を身に付けることを目標とし、それらを土台として、将来多くの方々から心から必要とされる牧師となるための訓練に励んで参りたいと考えております。

未熟な私を信頼し推薦をしてくださった釧路教会の皆さま、1 年間様々な経験を積ませていただいた長住教会の皆さま、神学生に期待し、その成長を心待ちにして下さっている全国諸教会・伝道所の皆さまに感謝します。引き続き、祈りに覚えていただければ幸いです。

神学部１年　　渡辺　鷹優
推薦教会：大阪中央バプテスト教会
研修教会：西南学院バプテスト教会

はじめまして、今年度から西南学院大学に入学しました渡辺と申します。三月に大阪の高校を卒業してから、入寮、入学と慌ただしい毎日でしたが、ようやく福岡での暮らしにも慣れてきて落ち着いてきました。この四年間の貴重な学びの時間を有効に使い、学問的にも経験知的にも大きく成長できるようなものにしたいと考えております。

また、自然や食文化などの素晴らしい福岡ならではの体験に感謝しながら、最後の学生生活を思いっきり楽しんでいこうと思います。最後にはなりましたが、これからの召命と献身の道を、心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして歩んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。